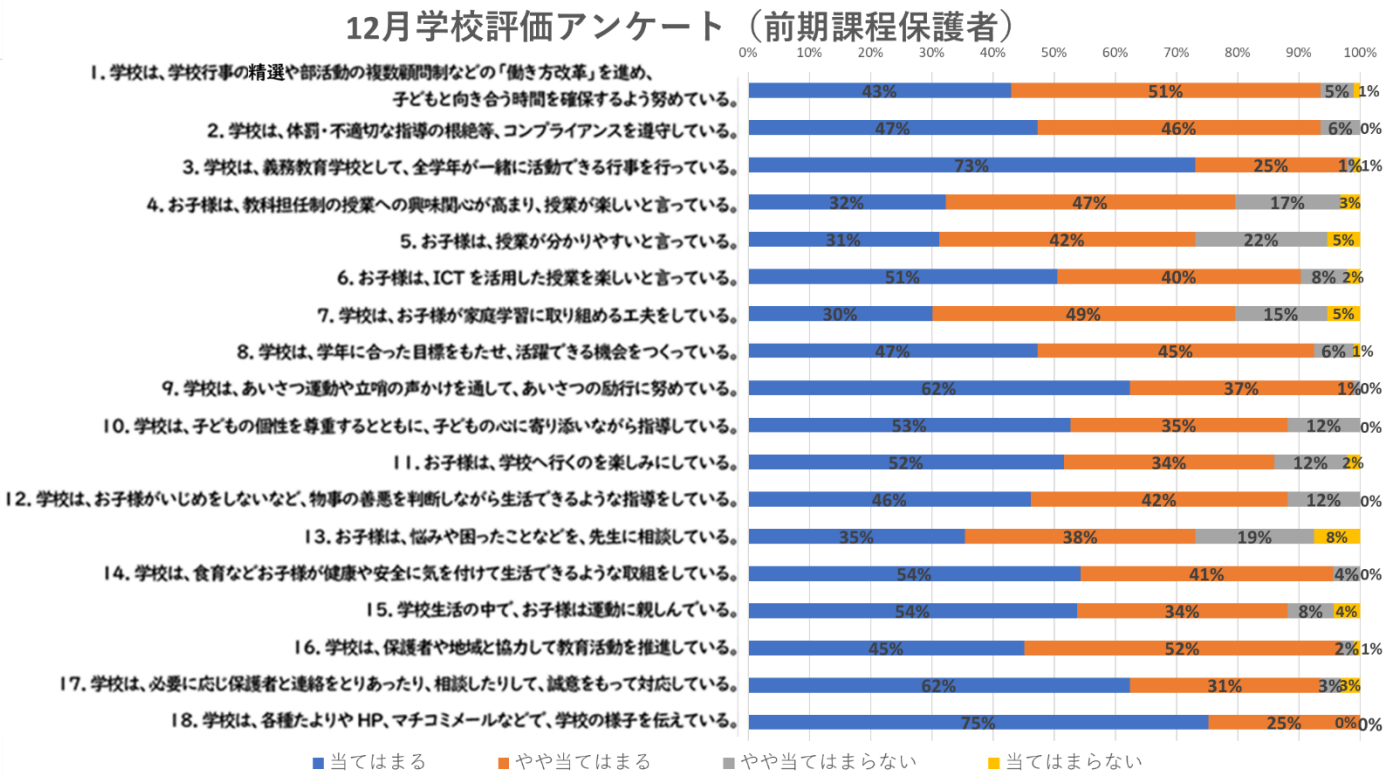
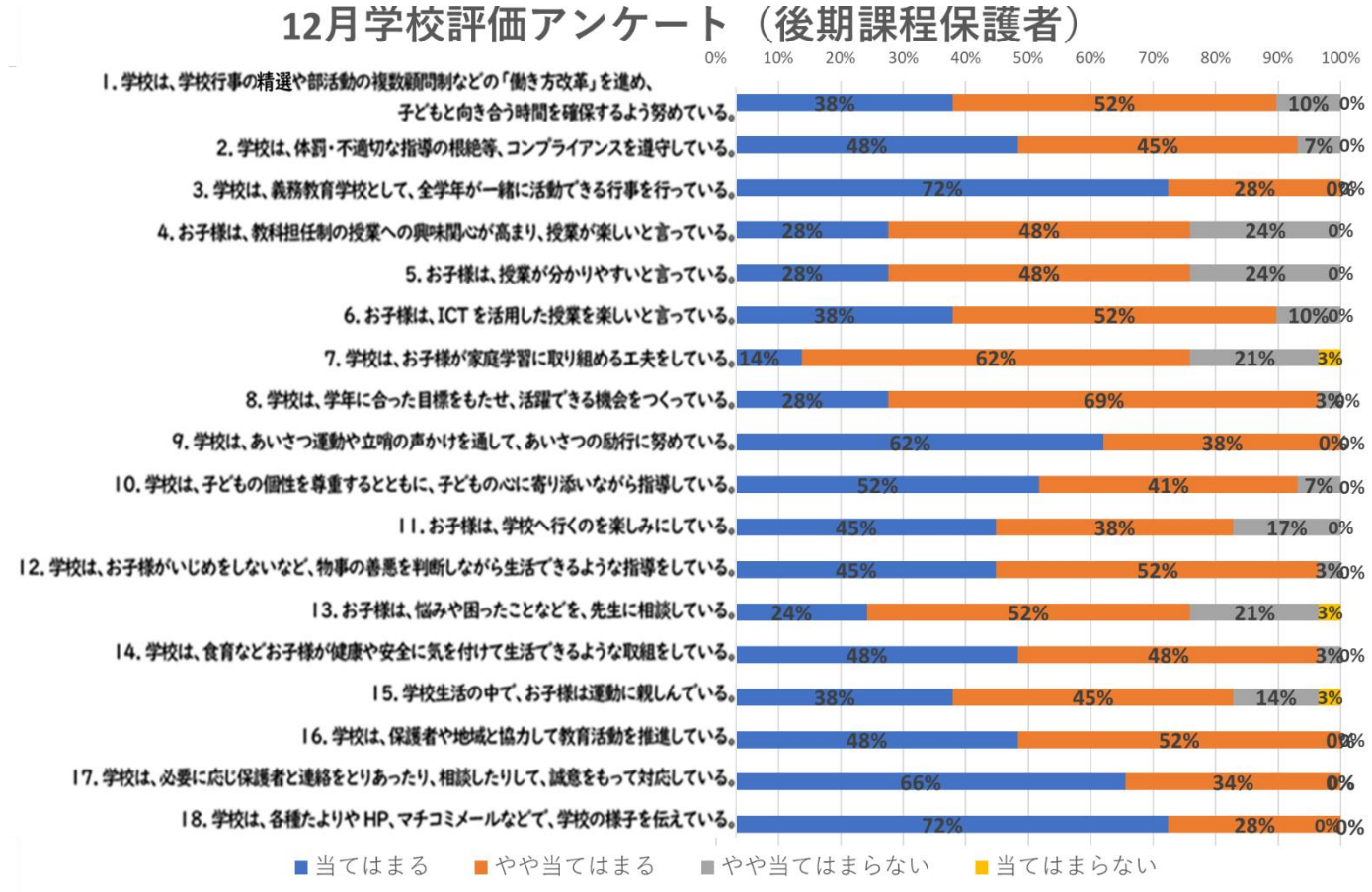
みなみ風

学校教育目標　人間力を高め、未来にはばたく児童生徒の育成
合言葉　私たちの最上位目標は、子どもの幸せ
学園だより　令和６年２月 16 日　第 31 号　みなみ学園義務教育学校

令和５年度第２回学校評価アンケート（12 月・保護者対象）の結果から

12 月上旬に行いました学校評価アンケート（保護者対象）の結果をお知らせします。学校 HP には、児童生徒対象、教職員対象も併せて掲載しておりますので、ぜひご覧ください。７月のアンケート結果との比較から、今後の指導・業務改善に努めていきたいと思います。アンケートへのご協力をありがとうございました。





【前期課程保護者にいただいた成果】

７月のアンケートと比べて、全 18 項目中９項目で１～８ポイントの増加が見られました。主なものを示しますと、

○　「１　学校は、学校行事の精選や部活動の複数顧問制などの「働き方改革」を進め、子どもと向き合う時間を確保するよう努めている。」という質問に対し、肯定的回答の割合は 94%で、７月から４ポイント増加しました。学校行事の内容の精選・改革や子どもたちと向き合う時間を大切にするための働き方改革について理解していただけたことでの評価だと考えます。

【後期課程保護者にいただいた成果と課題】

７月のアンケート結果と比べると、全 18 項目中８項目で１～26 ポイントの増加が見られました。主なものを示しますと、

○　「９　学校はあいさつ運動や立哨の声かけをとおして、あいさつの励行に努めている。」という質問に対し、肯定的回答の割合は 100%で、７月から 11 ポイント増加しました。縦割り班挨拶運動やウェルネス高校との挨拶運動の実施とともに、日常生活での生徒への挨拶の奨励などが、評価をいただいたものと考えます。

課題としては、

●　「11　お子様は、学校へ行くのを楽しみにしている。」という質問に対し、肯定的回答の割合は、83%で７月から 10%減少しました。今後は、生徒の特性・よさを生かせる場の工夫、頑張りを認め生徒の自己肯定感や自己有用感を高める働きかけ、関わりを行っていきます。

【前期課程・後期課程に共通する成果と課題】

○　「13　お子様は、悩みや困ったことなどを、先生に相談している。」という質問に対し、肯定的回答の割合は、前期：73%、後期：73%で、全項目の中では数値が最も低いのですが、７月から見ると、前期：８ポイント、後期：26 ポイント増加しました。先生方の子どもたちへの言葉かけや二者面談、丁寧な関わりが、保護者に理解していただけたと考えます。今後も、子どもたちと向き合う時間を確保し、いつでも相談できる関係、体制づくりに努めていきます。

７月のアンケート結果に比べて、前期課程・後期課程ともに肯定的意見が減少した項目が、

●　「４　お子様は、教科担任制の授業への興味関心が高まり、授業が楽しいと言っている。」前期課程：79%（９ポイント減）、後期課程：76%（６ポイント減）

●　「５　お子様は、授業が分かりやすいと言っている。」前期課程：73%（９ポイント減）、後期課程：76%（２ポイント減）

となっています。改善策として、日頃の学習での子どもたちのつまずきや学力診断のためのテストの分析を生かした学び直し・振り返りを取り入れるとともに、学習問題や学んだことの活かし方の工夫、ICT の効果的な活用を図ることで、更なる指導の改善に努めていきます。

令和６年能登半島地震募金へのご協力をありがとうございました
募金総額は、53,282 円になりました

１月１日に発生した「令和６年能登半島地震」を受け、児童生徒会役員の皆さんが、「自分たちにできることはないか」と考え、１月 22 日（月）から２月９日（金）まで募金活動を行ってきました。

募金活動への皆様のご理解とご協力により、募金総額は、53,282 円になり、２月 14 日に、茨城新聞社へ義援金として届けてきました。皆様の善意に、心から感謝申し上げます。

得意な教科

学年	県平均より１番点数が高かった教科	令和５年度		
		県	本校	差
4	理　科	70.8	73.9	＋3.1
5	国　語	72.1	72.9	＋0.8
6	理　科	77.6	84.8	＋7.2
7	理　科	62.1	62.2	＋0.1
8	社　会	56.3	70.9	＋14.6

令和５年度茨城県学力診断のためのテストから

１月 11、12 日、４～８年生を対象に、茨城県学力診断のためのテストが行われました。本校では、特に、来年度受験生になる８年生で学力向上が見られました。前期課程の時から教科担任制を取り入れ、教師の専門性を生かした授業を行ってきたこととともに、自ら学ぶ学級集団づくりに取り組んできたことも一因と考えます。今後は、各学年とも、得意な教科の成績をさらに伸ばすとともに、苦手教科の克服に向け、誤答や無答が見られた問題について復習・解き直しを行い、弱点をしっかり補強して新年度を迎えたいと思います。　（文責：野尻）